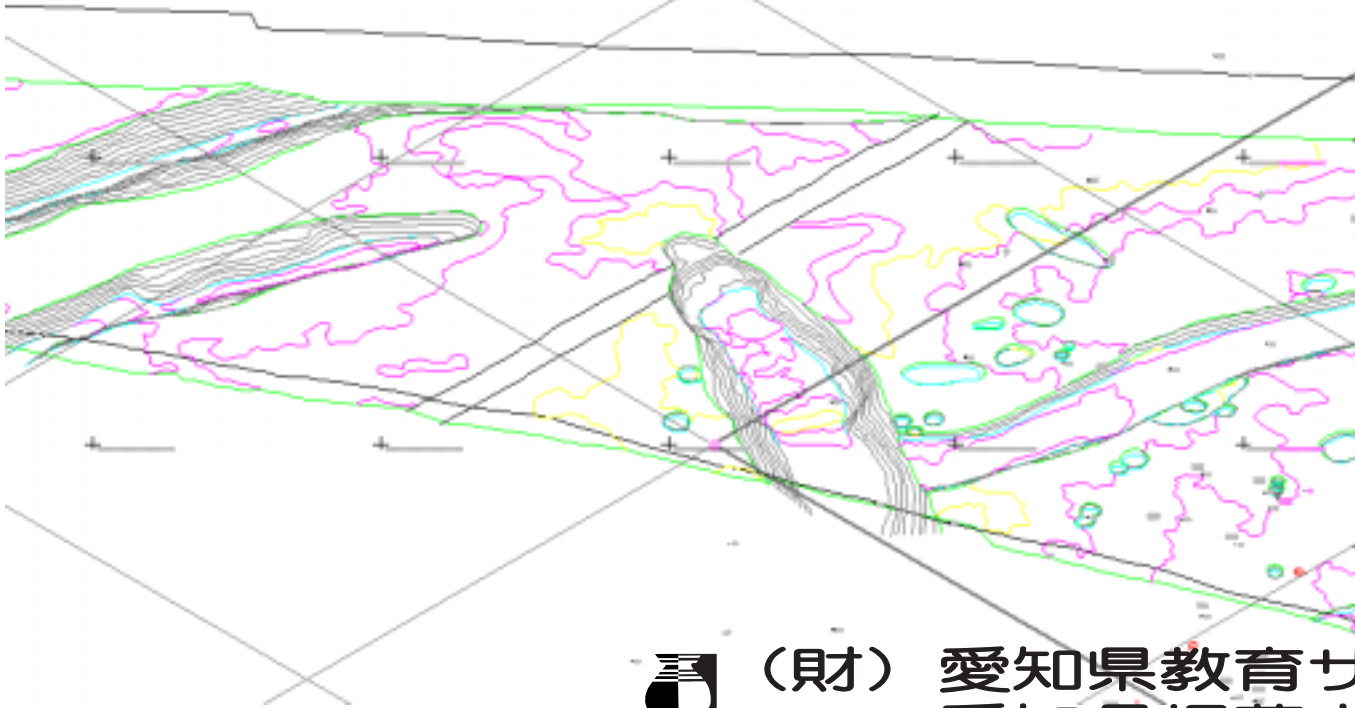


猫島

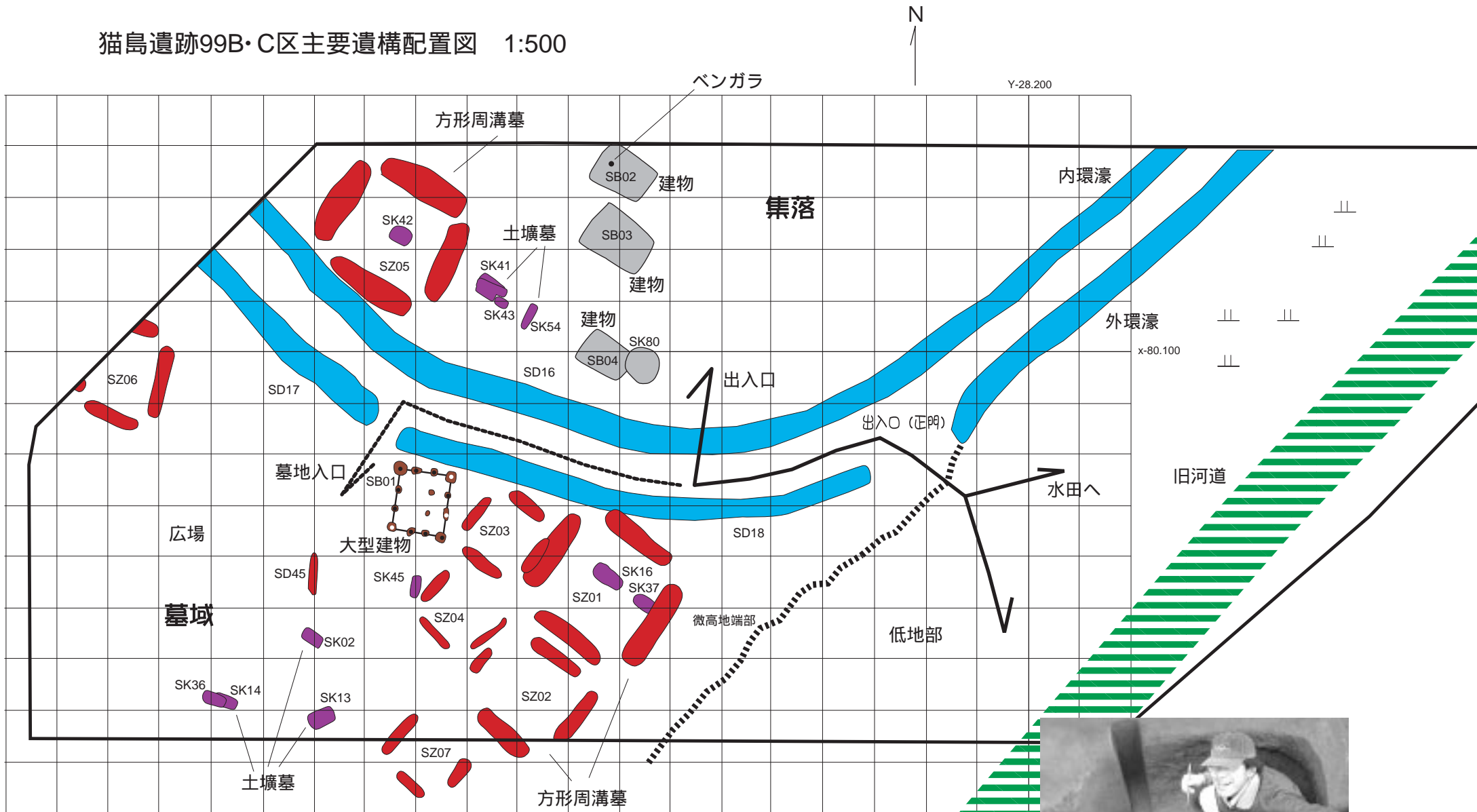


現地見学会資料 2000.2.26



(財) 愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

猫島遺跡99B・C区主要遺構配置図 1:500



おおがたてもの
大型建物

ほったてばしらたてもの
SB01は3間×3間の掘立柱建物です。南北6m前後、東西5m弱で30㎡の大きさがあります。四隅の柱穴は大きく方形で、1mから0.7mほどあります。柱材は北東隅と南西隅で残っており、特に北東隅のものは径約0.4mで高さ0.5mありました。材はコナラです。

ほうけいしゅうこうぼ どうろぼ ぼぜんさいじょう
大型建物は、周囲に存在する方形周溝墓や土壇墓の墓前祭場として使用されたようです。

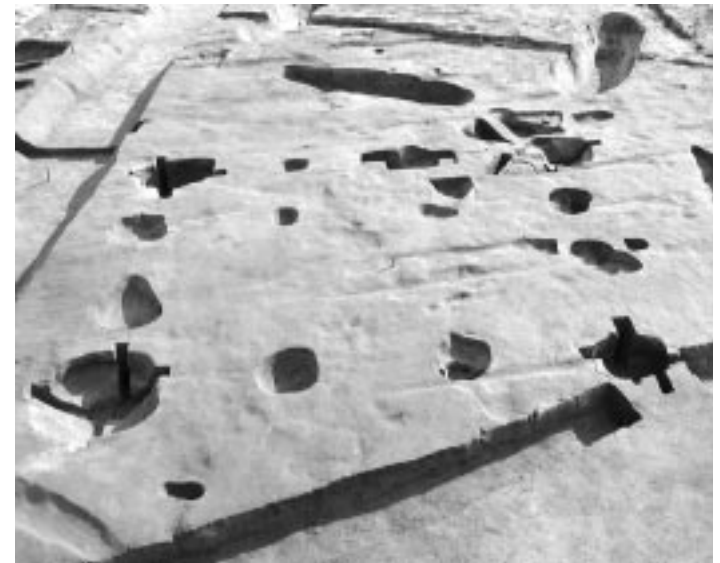
柱跡 SB01



大型建物 (SB01)

猫島遺跡とは

猫島遺跡は、一宮市千秋町塩尻地内に位置する弥生時代中期前葉（紀元前3世紀ごろ）を中心とした集落遺跡です。名神高速道路尾張一宮パーキングエリア（下り線）建設に伴う発掘調査として1999年5月から2000年3月まで、21500㎡を対象に発掘調査を実施してきました。その結果、猫島遺跡は東西に長く延びた微高地（自然堤防上）に立地する集落遺跡であり、集落の開始は弥生時代中期初頭に始まり、中期中ごろまで続いていたことが明らかとなりました。猫島遺跡の集落は二重の環濠に囲まれ、南側に水田が、西側にムラの共同墓地がつくられました。濃尾平野において、弥生時代中期前葉のムラの様子を、具体的に知ることができる、興味深い遺跡です。



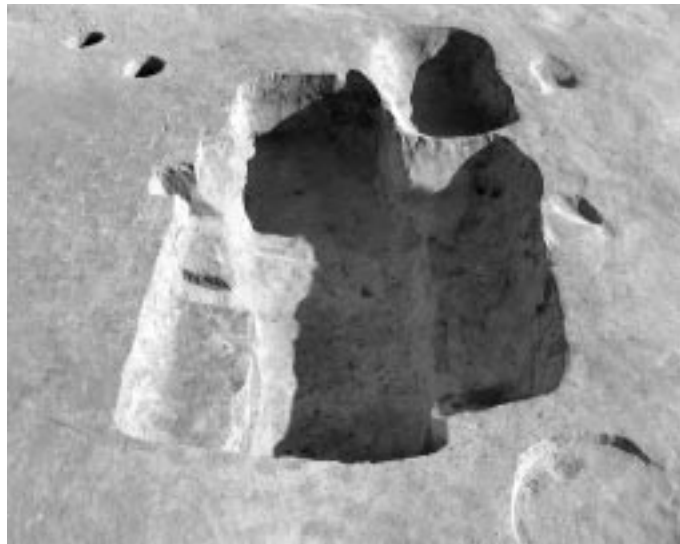
大型建物とムラのお墓

猫島遺跡西側（99 B・C区）には、ムラを囲む二重の環濠と、その外側に方形周溝墓・土壌墓がつくられた特別な場所が存在します。ムラの共同墓地です。ムラの墓地内には6基の方形周溝墓が存在しますが、不思議なことに一つの方形周溝墓（SZ05）だけが環濠の内側（集落内）につく

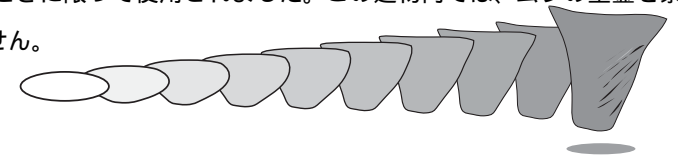
られています。なぜでしょうか。この墓に葬られたかたは特別な人だったようです。おそらく猫島ムラ創設時に大変活躍された人物だったのではないのでしょうか。ですから出入口に、まさにムラを守っているかのようにつくられています。ムラを守る聖霊となった人物でしょう。なお方形周溝墓の回りには土壌墓が合計12基見られます。

ムラの墓地への入り口には「大型建物」が存在しています。周囲はすべてお墓ばかりで、共同墓地の中に設けられた特殊な建物だったようです。墓地でのお祭り（墓前祭）に使用された施設か、あるいは祖先を祭るお堂のような建物と思われます。

一方で、集落内にただ一つだけ存在する方形周溝墓（SZ05）では、特別なお祭りが繰り返し行われていたようです。その跡が方形周溝墓 SZ05 と同じ方向をもつ建物群（SB02・03・04）です。長方形の竪穴状の建物は、他の地点では見られません。また建物 SB02 からはベンガラが出土しています。赤色をしたベンガラ（酸化鉄）は、神秘的な色として死者にふりかけたり、お祭りのときに限って使用されました。この建物内では、ムラの聖霊を祭る何か不思議な儀式が執り行われたかもしれません。



土壌墓 (SK41)

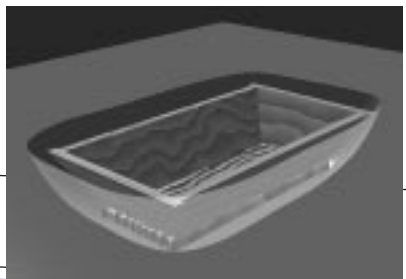


方形周溝墓（ほうけいしゅうこうぼ）：溝で区画する弥生時代の墓。溝の中や区画内に複数の人が葬られる家族墓。
土壌墓（どこうぼ）：木の棺を組立、人を葬る個人墓。

名神高速道路

N

土墳墓復原 (SK02)



井戸 (水汲場)

00Aa区

00Ab区

00Ac区

99,E区

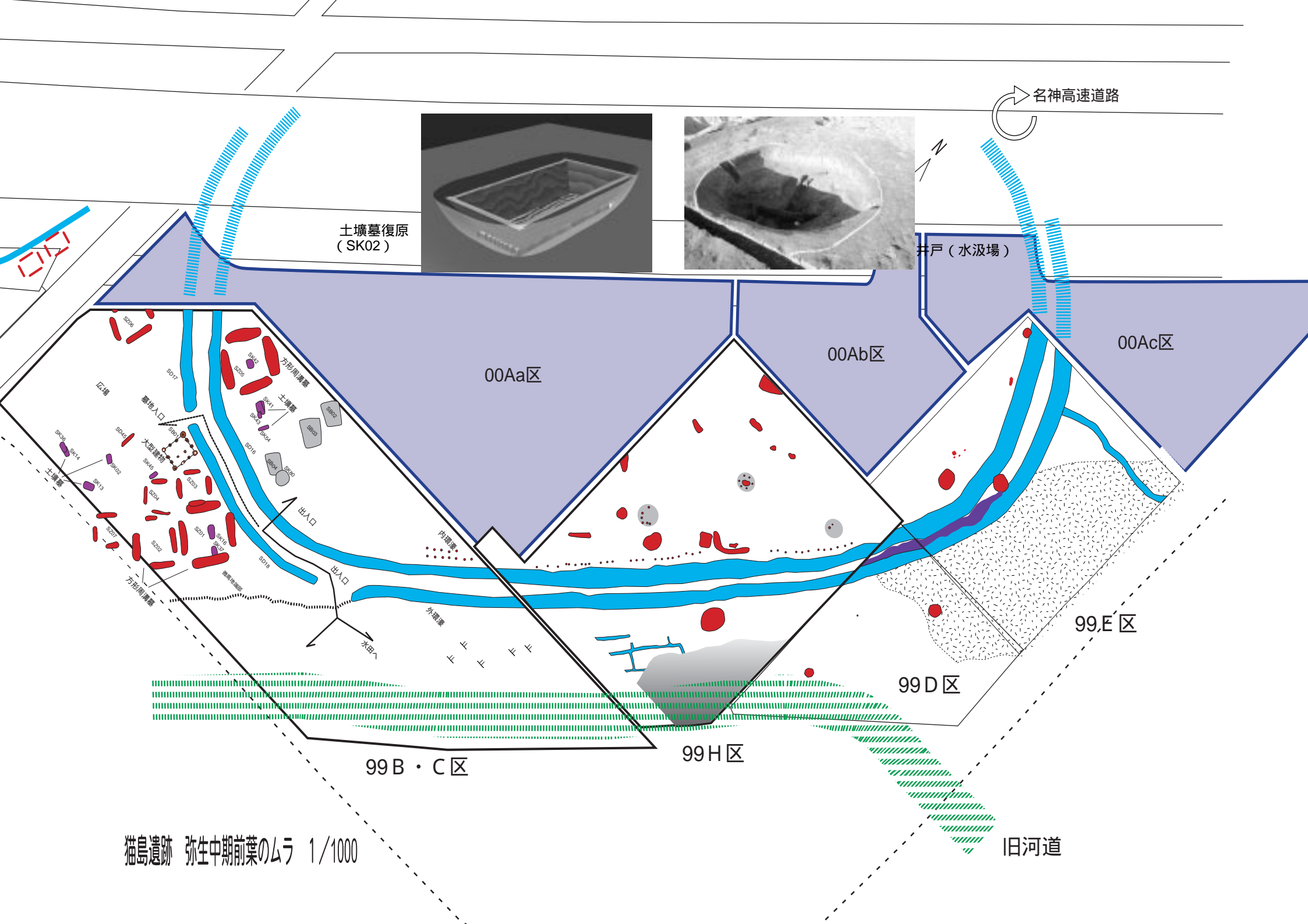
99D区

99H区

99B・C区

旧河道

猫島遺跡 弥生中期前葉のムラ 1/1000



猫島ムラを襲った洪水

今から二千三百年ほど前、弥生時代の猫島ムラに二度にわたって洪水が襲って来ました。一度目の洪水では、ムラの北東を守る土塁(堤)が大きく崩され、外環濠が埋まってしまうしました。洪水によって運ばれた砂は内環濠を乗り越え、その一部はムラの内側までせまって来ました。ムラ人は洪水の跡、共同で環濠を掘り直し、堤を高くして水害に備えました。おかげで二度目の洪水は外環濠と堤によりムラが完全に守られました。これが「輪中」の始まりかもしれません。こうした弥生人の知恵に驚くとともに、濃尾平野の厳しい自然と立ち向かう猫島ムラの人々がしのばれます。

彼らは弥生中期中葉のある日、忽然とムラを捨て何処へと旅立って行きました。どこへ向かったかは……

ムラの風景

猫島ムラには長さ200mほどにわたって二重に溝(環濠)が巡らされていました。北東の地点は水害に備えて内環濠と外環濠の間には高い土塁(堤)がつくられていました。一方で、南西の地点は溝が浅く、土塁は存在しません。むしろ道として使用されました。ムラの出入り口は数ヶ所存在しており、すべてクランク状に内環濠と外環濠を渡って出入りしています。南には内環濠に橋を渡した跡があり、この場所が正門にあたる部分です。その場所はムラを創設された聖霊をお祭りしている場所になります。そこから外環濠にそって西に進むと共同墓地があり、その入り口には大型建物が建っています。洪水によって亡くなったムラ人や、ムラのリーダーたちが静かに眠っています。東に進むと湿地帯にです。そこには水田が開けており、さらにその先には小さな小川が流れていました。ムラの船着き場(未調査)などがあり、他のムラへ小道がつながっていました。そうそうムラの南西にもおおきな水田が開けています。周囲は草が茂り、ときどき鹿や猪が顔をだしますし、昆虫もたくさんいます。

環濠(かんごう): 弥生時代のムラは周囲を溝によって囲まれていました。この溝を環濠とよんでいます。通常は外敵からの防御を目的とすると理解されていますが、猫島遺跡では、むしろ水害対策としての機能が存在したようです。なお外環濠と内環濠の間には土塁(堤)がつくられたり、道(クランク状出入口)として利用されていました。さらに内環濠に沿って柵が見られます。

環濠



方形周溝墓と
大型建物

かんこう
夏・環濠を発見



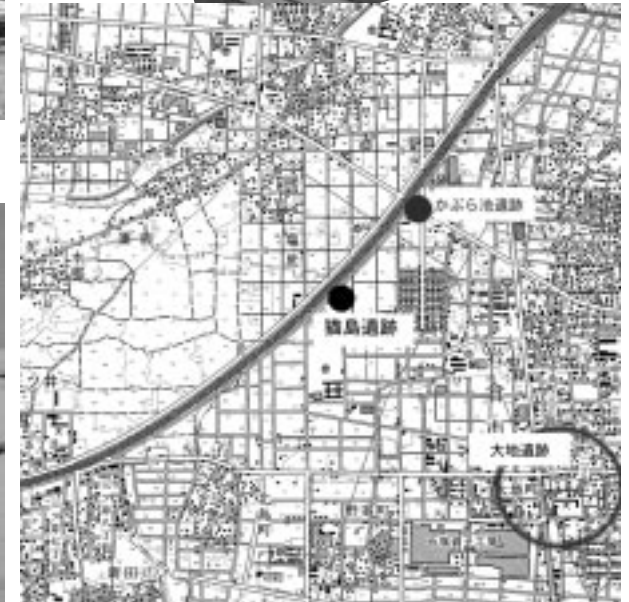
ぜんぼう
秋・ムラの全貌が
見えてきた



春・水没



発掘調査の風景



雪化粧

国土地理院「一宮」1/25000 より



2000.2.26

猫島遺跡現地見学会資料

資料作成：愛知県埋蔵文化財センター - 猫島遺跡発掘調査事務所

調査主体：(財)愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター

調査委託：佐伯建設工業株式会社

株式会社 パスコ